

◆ 今週のコメント

- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.17で、過去5年平均値(0.59)を上回っており、第8週以降上回る状態が続いています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は0.71で、過去5年平均値(0.11)を上回っており、第2週以降上回る状態が続いています。行政区別にみると、特に西京(3.25)で多くなっており、年齢階級別にみると、2歳以下で58.6%を占めています。
- ・ 麻しんの報告が1例あり、本年の累積報告数は11例となっています。
- ・ A型肝炎の報告が1例で、本年初めての報告です。

◆ 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

- ・ 本年の累積報告数は9例で、過去の同時期(第13週)までの累積報告数(0～1例)と比べて、顕著に多くなっています。詳細はトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

(性別、年齢、症状、推定感染地域、推定感染経路の順に掲載。ただし、結核は除く。)

- ・ 二類: 結核 1例(喀痰塗抹陽性 1例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 75例(喀痰塗抹陽性 22例, 無症状病原体保有者 7例)】
- ・ 三類: 腸管出血大腸菌感染症(O26 VT1) 1例
- ・ 四類: A型肝炎 1例
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例
- ・ 五類: 後天性免疫不全症候群(無症候性キャリア) 1例
- ・ 五類: 麻しん 1例

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.60	41
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.37	302
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.17	48
	③ 手足口病	0.71	29
	④ 水痘	0.54	22
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
エンテロウイルス71型 (1)	かぜ症候群(第8週)	NP	アデノウイルス6型 (1)	かぜ症候群(第9週)	NP
インフルエンザウイルス B型(1)	インフルエンザ(第8週)	NP	インフルエンザウイルス A/H1型(3)	かぜ症候群、インフルエンザ (第9, 10, 11週)	NP

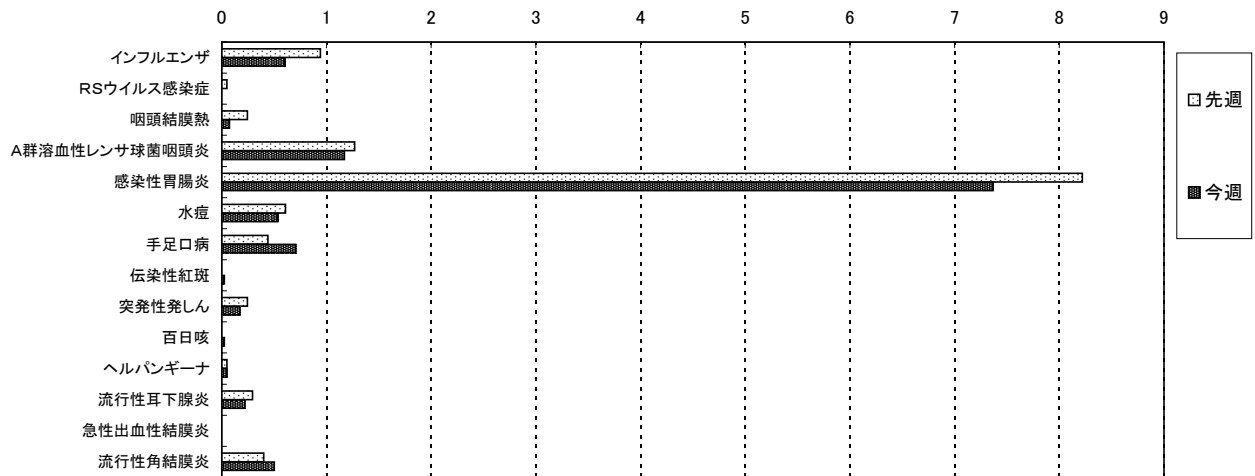
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

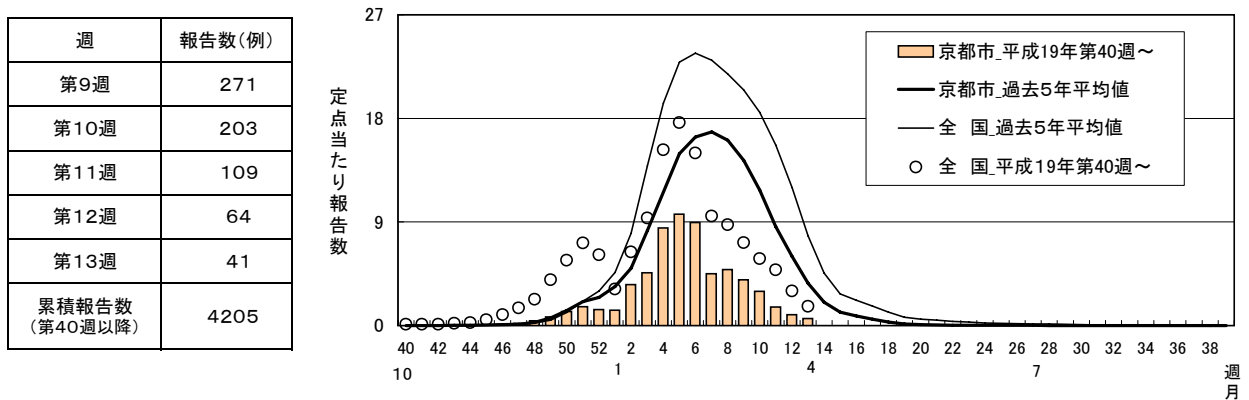
(注) 京都市のデータは、平成20年4月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第13週)と先週(第12週)の定点当たり報告数の比較

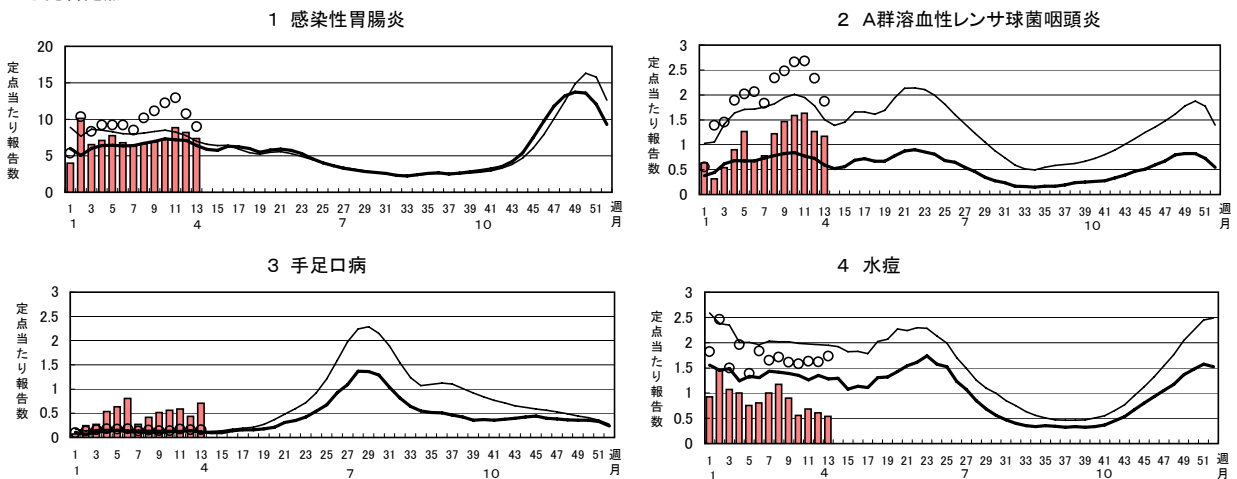


2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

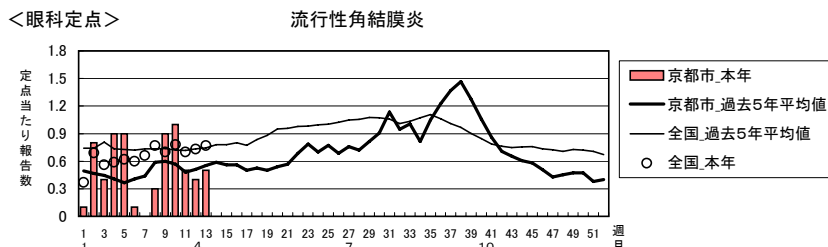


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第13週)のトピックス:〈レジオネラ症〉

本年の累積報告数は9例で、過去の同時期(第13週)までの累積報告数(0~1例)と比べて、顕著に多くなっています。また、昨年の報告数も、本市、全国ともに顕著に多くなっています。

診断年別月別推移をみると、本年は1月5例、2月1例、3月3例と、過去の年に比べ顕著に多くなっており、今後も増加の可能性があり、危惧されます。

本年の特徴は、性別は、ほぼ同数で、推定感染経路は、水系感染、その他が多くなっています。推定感染地域は、遠方で感染した例はなく、すべて京都府内で感染し、市内の医療機関から報告された事例となっています。年齢では、すべて60歳以上の高齢者からの報告です。なお、病型をみると、すべて肺炎型であり、ポンティアック熱の報告はありません。

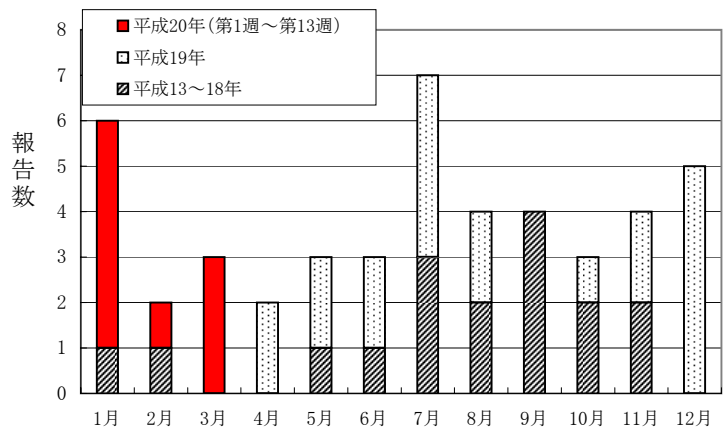
本年の都道府県別累積報告数(第1週~第13週)をみると、大阪府で19例と最も多くなっており、次いで東京都16例、埼玉県15例であり、関西地方、関東地方を中心に多くなっています。

届出数が増加した理由の一つとして、迅速診断が可能である尿中原抗原検査キットの普及が要因ともいわれていますが、報告が続いていますので、今後の動向にご注意ください。

診断年推移

	本市		全国
	年間	第1週~第13週までの累積	年間
平成11年4月~	0	0	56
平成12年	0	0	154
平成13年	1	0	86
平成14年	2	0	167
平成15年	3	0	146
平成16年	1	0	161
平成17年	2	1	281
平成18年	8	1	429
平成19年	20	0	655
平成20年	—	9	—
計	37	11	2,135

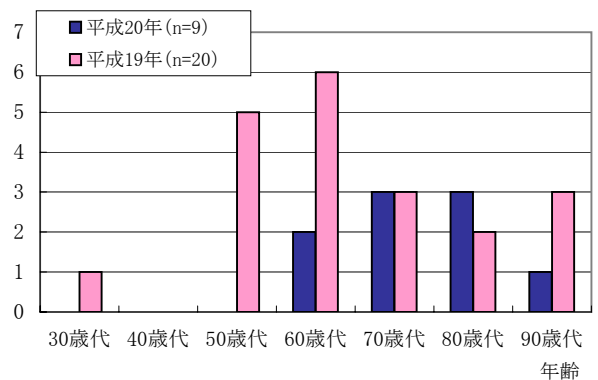
診断年別月別推移



平成20年(第1週~第13週)及び平成19年の特徴

		平成20年 第1週~第13週 (n=9)	参考: 平成19年 (n=20)
性別	男	5	14
	女	4	6
推定 感染経路	水系感染	4	7
	塵埃感染	1	0
	その他	4	1
	不明	0	12
推定 感染地域	京都市	6	11
	京都市外	0	5
	京都府内 (市内、市外が不明を含む。)	3	4

平成20年(第1週~第13週)及び平成19年の年齢階級別報告数



平成20年の都道府県別累積報告数(第1週~第13週)

